



2018年7月 第16巻第7号

## かく語りき—聖人の言葉

「わが子よ、信仰とはそんなに安っぽいものでしょうか。信仰は最後の決め手です。信仰があれば、ゴールにはほぼ到達しています」

…ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー

「神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない」

(抜粋:ヨハネによる福音書4章24節。『和英対照聖書 新共同訳』日本聖書協会、2001年)

## 今月の目次

- かく語りき—聖人の言葉
- 2018年8月の予定
- スワームー・ヴィヴェーカーナンダ 訪日125周年記念祝賀行事(神戸) 森岡智恵子さん、田辺美和子さん

- スワームー・ヴィヴェーカーナンダ 公開祝賀会(東京) 講演 「スワームー・ヴィヴェーカーナンダと日本」 ラージ・クマール・スリバスタバ 駐日インド大使館首席公使
- 大阪勉強会 第4回サットサンガ懇親会
- 忘れられない物語
- 今月の思想

## 今月の予定

### • 8月の生誕日

- 8月9日(木) スワームー・ラーマクリシュナーナンダ
- 8月26日(日) スワームー・ニランジャナーナンダ

### • 8月の協会の行事

- 8月4日(土) 10:00~12:00 東京・インド大使館例会 講義:『バガヴァッド・ギーター』 場所:インド大使館 お問い合わせ:

<http://www.gita-embassy.com/>お問合せ/  
または [gitaembassy@gmail.com](mailto:gitaembassy@gmail.com)

※入館・受講するには、大使館発行の ID カード (2018 年後期分) が必要です。詳細は、協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「インド大使館 ID」をご覧ください。

8 月 5 日 (日) 14:00~16:00

逗子午後例会

場所：逗子協会本館

詳細は協会ウェブサイトをご覧ください。

お問い合わせ：[benkyo.nvk@gmail.com](mailto:benkyo.nvk@gmail.com)

※日程変更や中止になることがありますので、協会ウェブサイトで事前に確認してください。

8 月 7 日 (火) 14:00~16:30

『ラーマクリシュナの福音』の勉強会  
(第 2 火曜日開催)

場所：逗子協会本館

お問い合わせ・お申し込み：  
[benkyo.nvk@gmail.com](mailto:benkyo.nvk@gmail.com)

詳細は、協会ウェブサイトの「Home」の一番下の方をご覧ください。

※前日までに上記の宛先にメールで予約が必要です。

※日程変更や中止になることがありますので、協会ウェブサイトで事前に確認してください。

8 月 18 日 (土) 10:00~12:00

『ウパニシャド』 スタディークラス  
講義：『ウパニシャド』

場所：インド大使館

お 問 い 合 わ せ :  
<http://www.gita-embassy.com/>お問合せ/  
または [gitaembassy@gmail.com](mailto:gitaembassy@gmail.com)

※2018 年後期 ID カードが受け取れます。免許証など写真つきの身分証を必ずお持ちください。

※入館・受講するには、大使館発行の ID カード (2018 年後期分) が必要です。詳細は、協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「インド大使館 ID」をご覧ください。

8 月 19 日 (日) 10:30~16:30

逗子例会

場所：逗子協会本館

8 月 25 日 (土) 13:30~17:00

関西地区講話

場所：大阪研修センター

内容：「『バガヴァッド・ギーター』と『ウパニシャド』を学ぶ」

詳細は専用ウェブサイトをご覧ください。 <http://vedanta.main.jp/>

8 月 26 日 (日)

浜松サットサンガ

お問い合わせ：加藤

[happy-yoga@outlook.com](mailto:happy-yoga@outlook.com)

8 月 毎土曜日 10:15~11:45

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：逗子協会別館

お問い合わせ：羽成淳（はなり すなお）

080-6702-2308

体験レッスンもできます。

予定は変更されることもありますので、日程は直接お問い合わせください。

専用ウェブサイトをご覧ください。

<http://zushi-hatayoga.jimdo.com/>

8月のホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活動（毎月最終金曜日）はお休みです。

## スワミー・ヴィヴェーカーナンダ訪日 125 周年記念祝賀行事（神戸） 森岡智恵子さん、田辺美和子さん



スワミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワミーजी）は世界宗教会議の途上で日本を訪れましたが、詳細は長いあいだ不明でした。スワミーजीが乗った船の航路がわかり始めたのが約 2 年前、神戸でメーダサーナンダ・マハーラージがおこなった調査の時でした。その後国内外の資料を検証して調査を重ね、ついに 1893 年 6 月 30 日に神戸から入国したことが分かったのがおよそ 1 年前でした。「スワミージ

ーが入国したその日・その場所で訪日のお祝いをしたい」というアイデアは、神戸での調査に協力をした関西の信者とマハーラージが、逗子で散歩をしている時に浮かんだものでした。そのとき、その翌年の 6 月 30 日はスワミーजीの日本訪問から 125 年目の節目であること、また行事を開催しやすい土曜日であることがわかり、数ヶ月のうちに祝賀委員会が結成されたのです。

この祝賀会開催に到る工程を次に簡単にまとめてみました。祝賀委員会のメンバーは、マハーラージを講師にお呼びして聖典の勉強を続けている「ギターとウパニシャッドを学ぶ会」からのボランティアが中心で、日本ヴェーダーンタ協会の信者が準備および当日のサポートをしました。祝賀プログラムについて、委員会は、スワミーजीが上陸したその場所でセレモニーをしたいと考えましたが、そこは埋め立てられ道路となっていたので、最も近いふ頭（メリケンパークの先端）で行うことにしました。また、スワミーजीが神戸見物の折りに立ち寄ったであろう兵庫大仏にも参拝することとし、それらを午前中のプログラムとすることにしました。メインイベントは、午後、会場を借りて、ゆかりある方々にスワミーजीにまつわるお話をしてもらおうということになり、委員会は開催までに幾度となく神戸を訪れ、会場探しや、兵庫大仏が鎮座するお寺

やインド領事館の訪問といった、様々な手配と準備、そして広報を重ね、ついに、開催日の2018年6月30日を迎えたのです。

この祝賀会は、シュリー・ラーマクリシュナと、ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーと、スワームージーの恩寵、そして又、沢山のボランティアの方々によるご奉仕により、円滑且つ完璧に、開催する側もご来場の皆様方も一体となって、共に楽しくおこなうことができました。

詳細を次にお知らせいたします。

## 神戸港で祈りのセレモニー

前日の豪雨から一転、雨はすっかりあがり、青空が見えてきました。ふ頭では強風を懸念しましたが、葉っぱ1枚も揺れることなく、まさにイベント日和となったのはスワームージーの恩寵に他ならない、と感じました。メリケンパークでは、神戸港に向かって小さな祭壇を設け、スワームージーの写真を飾り、その前にブルーシートを敷き、ボランティアを含め近県から集まった約25名のための席をつくりました。そして、午前9時、セレモニー開始の第一声を述べたまさにそのとき、なんと偶然の一致でしょうか！ 何度も船が汽笛を鳴らしたのです。それは、まるで今、スワームージーの乗る船が

入港したかのごとく、また、祝福のホラ貝が高らかに鳴り響いたようでもあり、肉体はなくなったけれども、今、スワームージーは神戸港に降り立ち、私たちを見ている！ そのように感じながらセレモニーを進めていきました。まず田中清央さんが代表で祭壇に献花し、海に向かって「スワームージー！ ようこそー、日本へーっ！」と大きな声で叫びました。私たちも「スワームージー！ ようこそ、日本へ！」と続いて呼びかけました。胸に迫るものがありました。



お線香を捧げてから全員でヴェーダの平安のマントラを唱え、その後マハーラージが、スワームージーのインドから日本までの行程と日本における足跡について説明し、森岡智恵子が日本の

様子を描写したスワームジーの手紙を朗読したあと、スワームジーに沈黙の祈りを捧げ、終わりのマントラを唱えて神戸港でのセレモニーは終了しました。

## 兵庫大仏に参拝



午後の会場の設営に向かうボランティアはここで別れ、兵庫大仏には約 20 名が参拝に向かいました。当時はパスポートが入国後に発行されたため、その入手のためにスワームジーは数日を神戸で過ごし見物をしたと思われませんが、兵庫大仏を二つ目のセレモニーの場所に選んだのは、大仏様を見物にいらした確立がとても高いと推測したからでした。理由は、当時の兵庫大仏は奈良（東大寺）、鎌倉（高德院）とともに日本三大大仏としてとても有名であったこと、その辺りは当時の神戸の繁華街であったこと、船から仏像を目にしたら実物を見にいらしたのではないかと思われること、また、初代の大仏はないものの 1893 年当時の石灯籠や線香鉢が残っていることも選んだ理由でした。

私たちは 10 時前に天台宗能福護国密寺に到着すると、見上げる位置に鎮座している大仏様の御前まで階段を上がり、当時の線香鉢にスワームジーの写真を掲げ、ヴェーダのマントラを唱えてセレモニーを開始しました。ご住職にはスワームジーの写真に献花をして頂いたあと、田辺美和子が参拝理由を簡単に述べてから、ふたたびお話を頂きました



——初代の大仏はスワームジー訪日の 2 年前に建立されたこと、当時はここから 200 メートル先が海で、大仏は乗船客に神戸到着を知らせるランドマークの役割も果たしていたこと、だから船から大仏を見たなら絶対に参拝されたはず、また、初代の大仏は戦時中に金属回収令で供出されたが、その金属の一部は溶かされて現在の大仏となっていること——。私たちは、スワームジーが訪れた聖なる場所だとの思いを胸に、線香蜂や石灯籠をなで、大仏様に手を合わせ、そして午後の会場、兵庫県私学会館へと向かったのです。



## 兵庫県私学会館での「訪日 125 周年記念祝賀会」

午後のイベントに向けてすでに設営が始まる中、いったん 30 名すべてのボランティアが 4 階ホールに集まり、全員でマントラを唱え祝賀会の成功を祈りました。マハーラージが、「スワミージーのお世話をして下さい。日本のみなさんの幸せと力のために、その素晴らしい教えを広めるお手伝いをして下さい」と話され、ボランティアは設営とプログラムのリハーサルを続けました。ステージの上手に、スワミージーの大きな写真がオレンジ色のお花と布で美しく飾られました。舞台中央のスクリーンには、祝賀会のタイトルとスワミージーのお写真が印象的に映し出されました。客席の後方には、スワミージーの人生を描いた 10 枚のパネル絵が展示されました。ロビーでは協会のショップが設置され、スワミージーにまつわる書籍や CD、DVD が並びました。受付ではお客様に配布するプログラムや、スワミージーの励

ましの言葉がつまった本『立ち上がれ目覚めよ』などが用意されました。午後 1 時半には開場し、在大阪・神戸インド副総領事のプリーヤ D. ブハノット氏をはじめ、インドの方々にも多くお越しいただき、全体で約 100 名の方が来場されました。



午後 2 時、「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ訪日 125 周年記念祝賀会」

は、英語担当の本田厚美さんと日本語担当の田島和一さんの司会により開幕、まずはスワームージーの生涯を描いたDVD（『ヴィヴェーカーナンダ・バイ・ヴィヴェーカーナンダ』からのダイジェスト）が約15分間上映されました。会場の皆様は真剣にご覧になっている様子でした。マハーラージ、シャンティ泉田さん、田辺美和子によりヴェーダの祈りが捧げられたあと、マハーラージ誘導のもと、「普遍の祈り」を会場全体で唱え、沈黙し祈りました。神聖な雰囲気の中、在大阪・神戸インド総領事のT. アームストロング・チャンサン氏による祭壇への献花、そして「スワームー・ヴィヴェーカーナンダとインドと日本の関係」というテーマでの講話へ、プログラムは進みました。



チャンサン氏は、スワームージーの日本での足跡を説明されたあと、「スワームー

ミーが印日関係の礎を築かれたことにより、今では両国の首相が毎年互いに訪問するまでの親しい関係となりました。インドは日本との協力関係によってさらに前進するでしょう」と述べられました。



最近インド政府からパドマ・シュリー (Padma Shri) という特別な称号を授与された関西日印文化協会会長の溝上富夫氏は、シェーカー・センという一人芝居で有名な方がスワームージーの生涯について歌った曲を会場に流し、その歌詞の内容として、スワームージーが14才のときにライプルで蜂の巣を見て霊的な経験をされたエピソードを紹介されました。またスワームージーと岡倉天心は交流をもちながらも、スワームージーは僧侶で世俗の欲望を絶つ人、天心は現世肯定の世俗の人として、両者の意見は必ずしも同じではなかったのではないかと述べられました。



そのお話を受けてヨーガ情報ステーション代表の大麻豊氏は、岡倉天心の「アジアは一つ」という考えは、スワージーの「真実在は一つ」というワンネスの思想から影響を受けたのではないかとお話しされ、インドと日本の霊性の交流はこれからもずっと続いていくでしょう、と結ばれました。



続くマハーラージのスピーチでは、歓迎のことばを丁寧に述べられたあと、「スワージーの来訪に恵まれたことは、日本の宗教史上重要なことだ」として、パワー・ポイントを使ってスワージーが旅した当時の日本の写真をスクリーンで見せながら、「スワージー・ヴィヴェーカーナンダの日本訪問」というテーマで話されました。内容は、スワージーは日本の文化と国民性を高く評価しながら、日本が抱える問題とその後の変化についても理解していたこと、また、スワージー

一の思想が日本に貢献できることとして、①包括的で真正な霊性を伝えること、②カルマ・ヨーガの理想を伝え広めること、③仏教の再興、④日本人の意欲を高めること、⑤印日関係のさらなる発展、という五つの課題を挙げて説明されました。最後に、「両国民が互いの良いところを吸収し協力しあうことが、日印関係の礎を築いたスワージー、岡倉天心、ラビンドラナート・タゴールへの感謝と敬意の証しとなるでしょう」と結ばれました。



こうして第1部が閉幕し、休憩時には皆様にサモサ、ラドゥ、ミルクティのセットが配られました。20分という短いあいだに多くの方がロビーのショップに立ち寄られ、買い物をされたり、展示パネルを見たりしていました。



午後4時20分から始まった第2部は音楽中心のプログラムでした。まずは協会会員と「ギターとウパニシャッドを学ぶ会」受講生の計15名が、調和をうたったリグ・ヴェーダの節を歌詞にした「サムガッチャドワム」と、スワーミーの素晴らしい様々な質をうたった「ヴィヴェーカーナンダ・ジャイ・ホー」の二つの賛歌を、シャンティ泉田さんのキーボードと大久保利武さんのギター伴奏で披露しました。



次にバーンスリー奏者、中川博志氏がスワーミーを尊敬していたラビンドラナート・タゴールの「ボション

テ・キ・シュドゥ」をもとに演奏されました。



やわらかく美しい音色が広がり、さらに和やかで調和的な雰囲気になった頃、祝賀会書記の森岡智恵子により謝辞を述べる最後の時となりました。その中で、「関西にも調和的なヴェーダーンタの教えを学ぶことができるラーマクリシュナ・ミッションの支部をつくりたい」という声が徐々に集まり、昨年から関西支部設立基金が始められたことが発表されました。最後に司会から、「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの名のもとに、みなさまが最良であることをお祈り申し上げます」というマハーラージのメッセージが伝えられ、5時ころ閉会となりました。帰り際には娘に伝えたいとプログラム一式を所望する方や、寄付をしたいとおっしゃられた方々がいました。ご来賓ご出演者を含め全員で、ステージ上のスワーミーの写真と共に集合写真を撮りました。

6時半からは館内のレストラン『ハナ

ワグリル』にて慰労食事が開かれました。マハーラージ、大麻氏、関東・関西のボランティアスタッフ計 24 名で、スワームージーを思い讚えた素晴らしい 1 日を振り返りました。ボランティアの中には、与えられた仕事を前に緊張していたが、神戸港で充電されるようなエネルギーを感じ勇気を持たれた方、「内なる力をあらわせ」というメッセージを今日 1 日を通して体感した方、自分の力だけでは何も成し遂げられない、調和によって可能になることを実感した方などがおられ、そうした体験からくる感想は、どれも互いの励ましになるようなものばかりでした。そしてマハーラージは、「神聖な良い目的を行う時は、たとえ実現が難しいように思えても、神様を信じて行うことが大事なのだ」とお話しされました。皆で「ふるさと」を歌ったあと、マハーラージが「鳥はいろんな方向へ陸を探しに飛んでゆかなくても、神さまの船のマストにとまってさえいれば何も心配はいりません」という内容の歌を歌ってくださいました。

シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザー、スワームージー・ヴィヴェーカーナンダの恩寵のもと、調和と祈りの中で、スワームージーの訪日を皆でお祝いするという素晴らしい体験をさせて頂きましたことに、心より感謝申し上げます。

ジャーイ！ スワームージー・マハーラージキー・ジャイ！

**スワームージー・ヴィヴェーカーナンダ第 155 回生誕記念祝賀会**

**スワームージー・ヴィヴェーカーナンダ訪日 125 周年記念祝賀会（東京）**

**講演 「スワームージー・ヴィヴェーカーナンダと日本」**

**ラージ・クマール・スリバスタバ駐日インド大使館首席公使**

この機会に、スワームージー・ヴィヴェーカーナンダのより良く生きる思想と、私のそれらの解釈を思い起こし、スワームージー・ヴィヴェーカーナンダへの尊敬の念を表したいと思います。私はかつてエンジニアリングと科学のバックグラウンドを持つ学生として、スワームージー・ヴィヴェーカーナンダの著作を読みました。そして先見の明を持つヴィヴェーカーナンダの思想が科学的な思想であることが分かりました。彼の思想は、今では科学的な思想として理解されていますが、当時の科学よりずっと先行していました。

ヴェーダーンタ哲学には、彼の生きた時代にはまだ説明されていなかった物理学の要素が含まれています。ニュートンのモデルは、まだアインシュタインによる挑戦を受けていませんでした。スワームージー・ヴィヴェーカーナンダは、彼の思想を通じ、物理学と形而

上学の概念が近いことを説得力を持って説明しました。

後の時代になり、アインシュタインは同じ物理学の原則を使って大と小、そして宇宙と原子について説明するために、物理学の統一理論について取り組みました。ヴィヴェーカーナンダは、それよりずっと前に同じことを説明していました。つまり、愛、慈悲、献身をもって外の世界を見つめることにより、絶対的な真実を見つけることができますとしています。これは大の理論です。それに対して、瞑想し内側の世界を見つめることにより究極的にはサマディ（三昧 さんまい）に至ることができる - これが小の理論です。

ヴィヴェーカーナンダが彼が生きた時代の先を行っていたという別の科学的な思想の例として、時間というものは私たちの思想の尺度でしかなく、思想は私達が気が付かないうちに移り変わる、そして、今後私達が生きる速さに限界はないというものがあります。今日、私たちの生活が速いスピードで変化していくことを見るとき、このヴィヴェーカーナンダの思想が現実となっていることが感じられるでしょう。

私にとり、ヴィヴェーカーナンダの人類へのメッセージは、暗闇から光へ、知識から意識への移行です。彼は、人類の歴史はいわゆる自然の法則に対す

る絶え間ない戦いであると述べています。内面的な世界においても、それは光と闇の戦いです。

ヴィヴェーカーナンダが宗教について語る時、人生における最良の指針は強さであるとし、次のように述べています。「あなたを弱くするすべてのもの捨てなさい。あなたには何の関係もないのです。」彼がカルマ・ヨーガやラージャ・ヨーガといった様々なヨーガの形を語る時、人生におけるバランスを保つことがヨーギーの真の認識であると言っています。何事においても、やりすぎるとするのはヨーギーの性質ではないのです。ヴィヴェーカーナンダは、男性や女性を判断するとき、それぞれのもつ素晴らしさの基準によって判断するべきだと言っています。

インドと日本の文明間の結びつきの一つは、私たちが共通に有する仏教遺産です。ヒンドゥ教と仏教を比較し、ヴィヴェーカーナンダは、ヒンドゥ教は仏教なしでは存在しえず、仏教もヒンドゥ教なしには存在しなかった、と述べています。仏教の心とヒンドゥ教の頭脳と哲学がインドの文明に力を与えています。

ヴィヴェーカーナンダが、自身の来日から 125 年後にインドと日本の間でパートナーシップがこのように発展している様子見たとしたら、きっと喜ぶこ

とでしょう。

ご清聴ありがとうございました。

## 大阪勉強会 第4回サットサンガ 懇親会 ご報告

日時：2018年3月24日（土）

17:45～21:00

会場：インドレストラン「アショカ」  
（梅田）にて

参加者：マハーラージ含めて26名

今年も、遠方からの参加者（四国、名古屋、東京）、また家族と一緒に参加する方も交え、「マハーラージと参加者、および参加者同士のコミュニケーション」という開催目的を満たすようリラックスした会となりました。



参加者のスピーチには鼓舞されたり共感を覚えたりするものばかりで、興味深く聞き入りました。個人的には、カルマ・ヨーガというアイデアや実践法に出会ったきっかけを語り、カルマ・ヨーガをしながらも自分の汚い部分を見てしまう、それを克服していく

過程で学んだ「神にゆだねる」ということに感謝しているという経験談に、自分を重ねて深く考えさせられました。

また今回は新企画として、インドやインド文化についてのQ&Aコーナーをもうけました。ふだん実践していることの中でふと疑問に思うこと——たとえば食事は菜食でなければいけないのか、何に気をつけて食事をすればよいのか、など——についてお答えをいただきました。ベジ、ノンベジを良い悪いの基準にするのは浅い考えだということ、何を食べても心が清らかであることを基準にするほうが大事であること、だからといって心のコントロールをせずに食べ過ぎたり、毎日肉を食べることはいけない、また口から入る食事だけでなく目や耳から入る食事（景色や音など）にも気をつける、など、実践的なお話を聞きました。

大阪勉強会ではこうした催しを重ねることで、聖典の学びを実践できる機会を得ていることを、回数を重ねるごとに実感しております。気づきの場、成長の場を与えて下さる方々すべてに感謝いたします。



## 忘れられない物語

### 財布の物語

ある時、1人の老人が汽車でブリンダーバンへの巡礼に向かっていた。ある夜、寝ている間に財布がポケットから落ちた。翌朝、他の乗客がそれを見つけてこの財布は誰のものかと尋ねた。老人は自分のものだと答えた。財布の中にシュリー・クリシュナの写真正が入っていたのがその証拠だった。

老人はその財布にまつわる話を始めた。すぐに彼の周りに何人か集まってきた彼の話に関心した。老人は皆に見えるように財布を持ち上げると、こう言った。「この財布には長い歴史があるんだ。ずっと昔、私がまだ子供の頃、この財布を親父がくれたんだ。お小遣いと両親の写真正を中に入れて使っていたよ」

「やがて大学に入ると、自分の容姿が気になり始めてね。若者は皆そうだろう。だから、財布には両親の写真正ではなく自分の写真正を入れたんだ。よくそ

の写真正を見ては、自画自賛したものさ」

「結婚すると、興味の対象は自分自身から家族に変わった。財布の中には自分の写真正ではなく妻の写真正を入れたよ。日中、その写真正を何度も取り出して見つめたんだ。そうすると疲れなんか吹き飛んで、また仕事に集中して取り組めたんだ」

「そして子供が生まれた。父親になることがあれほど嬉しいことだなんて！毎日仕事が終わると家に飛んで帰って、赤ん坊と遊んだものさ。言うまでもなく、財布の中身は妻の写真正から子供の写真正に変わった」

老人の言葉が途切れた。目に浮かべた涙を拭いながら、老人は皆を見回して悲しげな声で言った。「皆さん、私の両親はずいぶん前に亡くなり、妻も5年前に先立った。一人息子は結婚したが、仕事と家族で忙しくて私と会う時間はない。私はもう先は長くないし、これから何があることやら。愛した人や自分のものだと思っていたものは、すべて私からなくなったよ」

「今、私の財布の中には主クリシュナの写真正が入っている。彼はこれからも決して私のもとを去らない。初めから彼の写真正をいつも持ち歩いていればよかった。彼だけが真実、他はすべて過ぎ行く影だ」

ホーリー・マザー シュリー・サーラ  
ダー・デーヴィーはこうおっしゃって  
います。「わが子よ、恐れてはなりません。  
この世での結びつきは一時的なもの  
です。今日、これこそ人生で最も大  
切だと思えたものが、明日は消えて無  
くなります。本当の結びつきは神との  
結びつきです。神はあなた自身のも  
ので、永遠の関係です。神はいつも、い  
つまでも、あなたの世話をしてくださ  
います。全宇宙に遍在する主に呼びか  
けなさい。主があなたを祝福してくだ  
さいます」

(出典『Dipika』南アフリカ・ラーマ  
クリシュナ・センター(Sri Ramakrishna  
Centre of South Africa)

## 今月の思想

「若いうちに身につけた良い習慣が全  
てを大きく変える」

…アリストテレス

**発行：日本ヴェーダーンタ協会**

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)